

アンケート集計結果

参加者アンケートとその集計結果

参加者に、以下のアンケート票を配付し、記入を依頼しました。

平成 20 年度 文部科学省研究開発評価シンポジウム アンケート

本日は、研究開発評価シンポジウムにご参加いただき、ありがとうございます。このアンケートは、今後の研究開発評価シンポジウムが、評価実務者にとって更に有意義な場になるよう、ご参加いただきました方々のご意見やご要望を伺い、今後の運営に役立ててゆくためのものです。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。（回答は、該当する番号に○印を付してください。また、記述欄へのご記入もお願いいたします。）

質問 1. あなたの所属等についてお聞かせください。
【所属】 ①文部科学省 ②文科省以外の府省 ③文科省所管の独立行政法人
 ④文科省以外の府省所管の独立行政法人 ⑤国立大学法人
 ⑥公私立大学 ⑦大学共同利用機関法人 ⑧その他 ()
【立場】 ①評価実務者 (事務局職員) ②評価実務者 (教員) ③評価実務者 (研究者)
 ④評価研究者 ⑤その他 ()
【現在の業務歴】 () 年

質問 2. シンポジウムの内容は、あなたが仕事を進めるうえで参考になりそうですか。
 ①すぐに役立ちそうである ②すぐには役立たないが、長い目でみれば役立ちそうである
 ③あまり役立ちそうにはない ④まったく役立ちそうにはない ⑤どちらとも言えない
 理由 ()

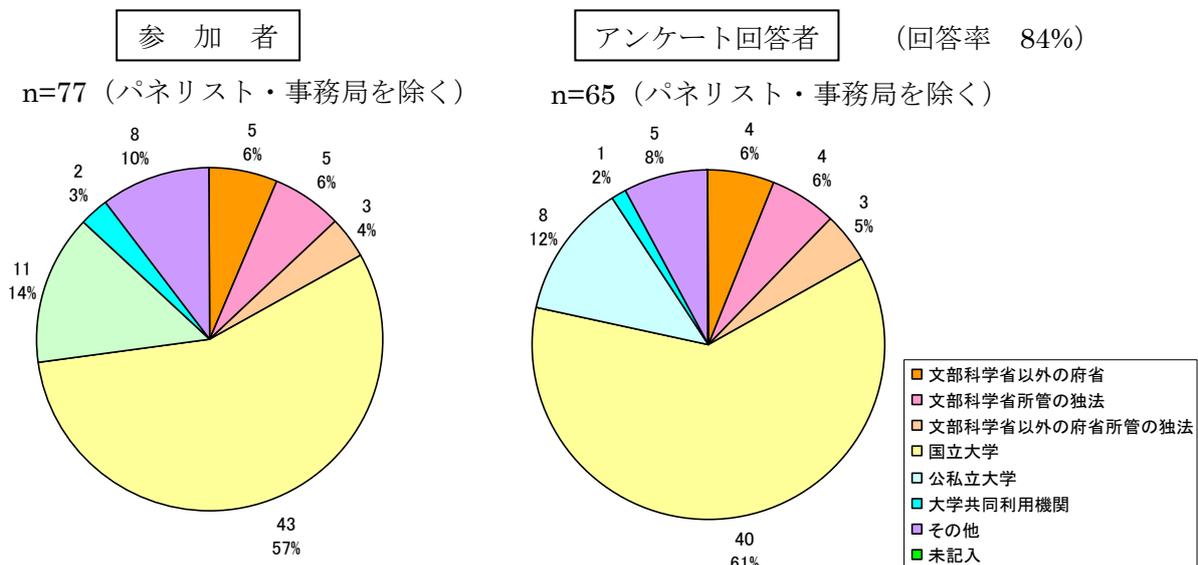
質問 3. 新たな知見が得られましたか。
 ①まさにそう思う ②ややそう思う ③あまり思わない ④全く思わない ⑤どちらとも言えない
 理由 ()

質問 4. 満足度はいかがですか。
 ①とても満足した ②満足した ③やや不満であった ④不満であった ⑤どちらとも言えない
 理由 ()

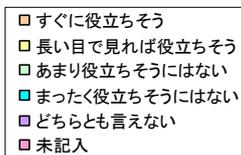
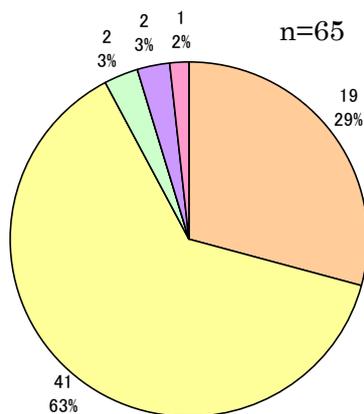
質問 5. 今後もシンポジウムに参加したいと思いますか。
 ①ぜひ参加したい ②テーマや講演者によっては参加したい
 ③あまり参加したいとは思わない ④どちらとも言えない
 理由 ()

質問 6. 希望するシンポジウムの内容やテーマがありましたら、具体的にお書きください。
 質問 7. 会場、実施時期、実施時間等について、ご意見・ご要望がありましたら、具体的にお書きください。
 質問 8. その他、研究開発評価シンポジウム全般に関するご意見・ご要望がありましたら、具体的にお書きください。
 質問 9. 研究開発評価活動に対する支援策について、ご意見・ご要望がありましたら、具体的にお書きください。

アンケートの集計結果は、以下のとおりです。



仕事を進めるうえで
参考になりそうか



主な意見

〈「すぐに役立つそう」と回答した者〉

- ◆ 様々な機関の取り組みは非常に参考になる。国立系の機関は、もっと上の人間が考え、方向性の考え方を占めるべきである。
- ◆ 今後の教員評価の方向性が垣間見れてよかった。
- ◆ 次期の計画等に有益だと思う。
- ◆ 他大学の事例について、今後、本学での検討の参考となる。
- ◆ 紹介された個別事項は参考になる部分が多い。研究評価におけるポイント制の採用の特徴についても紹介していただきたかった。
- ◆ 各種プロジェクト研究の立ち上げ経過評価等の基本的考え方が概ね理解できた。
- ◆ 資料等でわからない時に考えて整理できる。
- ◆ 大学における教員の評価について、研究活動に関する事項として参考になったから。
- ◆ 評価について全国的状況、いくつかの具体例が学べて、今後の自大学での評価活動を行ううえでの視点や方法などに大いに参考となった。
- ◆ 自分のセンターの目標設定を考える必要もあり、その意味で役立つ。
- ◆ 本学も先進国立大の制度や、本学における研究費配分ルール等を参考に、制度構築中だが、本学として独自の姿をつくっていくしかないことを前提としつつも、課題意識や、制度のあり方について、他事例を参考に軌道修正していきたいと思う。教員の理解も、他事例紹介があった方がより円滑であろうと思われる。
- ◆ 学内での共同研究組織の立ち上げを検討しているが、「評価」は重要な側面であること。FD or SD (の実施) プロジェクトも併せて検討、いずれにも深く関わる課題と位置付けている。

〈「長い目で見れば役立つそう」と回答した者〉

- ◆ 正解がないから。
- ◆ 知識としては増えたが、実際に使えるかは分からない。
- ◆ 民間企業（東京ガス）が興味深かった。
- ◆ 本学の研究評価が本格稼働していない。
- ◆ 評価の実務を担当して、まだ日が浅いので、学ばなければならないことが多い。
- ◆ 大学側としては研究だけでなく教育の比重が大きい訳で、教育を別にした評価ができない事情をお考えいただきたい。
- ◆ 教員個人評価システムの改善が求められ、そのための貴重なデータをいただいたように思う。
- ◆ 評価項目の見直しを進める上での材料となる。
- ◆ 文系研究の評価の在り方等への事例があればと思った。
- ◆ 他分野の参考事例を聞き、大きな示唆を受けた。
- ◆ FD 推進室と連携し、評価実務を側面支援している。
- ◆ 教員評価に関係する話が多かった。

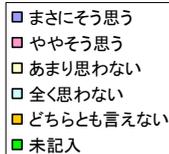
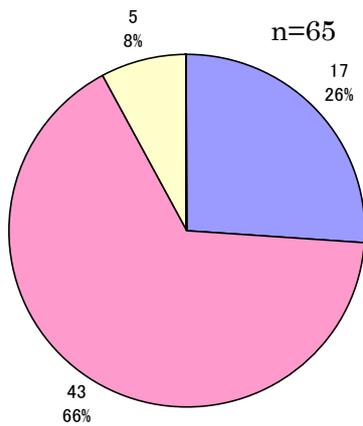
〈「あまり役立つそうにはない」と回答した者〉

- ◆ テーマをある程度しぼっているのはわかるが、もっとせばめた方がよいと思う。あまり議論が深まらないような気がする。アンケートの結果報告も、全体的な報告…は必要なのでしょうが…全体的になりすぎて論点がわかりにくくなってしまっている気がする。

〈「どちらとも言えない」と回答した者〉

- ◆ 参考になる部分と、そうでない部分があった。三木先生、内田先生の話は良く理解できる内容であった。
- ◆ 役立つ部分と、役立つそうにはない部分の両方あった。

新たな知見が得られたか



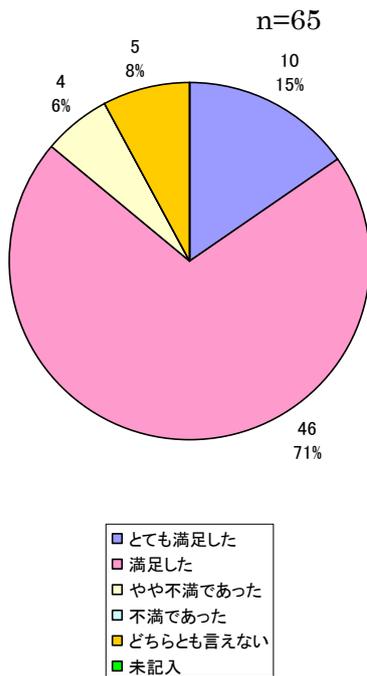
〈「まさにそう思う」と回答した者〉

- ◆ 各セクターの立場からの知見が得られよかった。
- ◆ 具体例がきけたため。
- ◆ 国立大学の全般的な傾向を知ることができた。
- ◆ これからの教員評価に即利用出来る評価の方向性が（全体像）が解った。
- ◆ 企業における人事評価や研究テーマ評価の事例を聞いたため。
- ◆ いくつかの大学の実施例は参考となった。また、評価は何のためにやるのか、評価を通じて大学の研究レベルを上げてゆくために必要なことは何かという点は考えさせられることが多かった。
- ◆ 特に先進大学における現在の課題意識の変遷について。組織目標である中期計画等との整合性は、今後の課題としてとらえているが、他の公立大学も同様な問題意識をもっていることがわかった。
- ◆ 国内外の大学の実情、日本の大学に於ける評価実例、山口大学の事例、企業研究者に於ける事例等が具体的に示され、大いに参考になった。

〈「ややそう思う」と回答した者〉

- ◆ 評価に対する、色々な立場の方の生の声をさくのは、少しずつではあるが、常に評価をよい方向に持っていけると思う。
- ◆ 他大学の状況が判った。
- ◆ パネルディスカッションが有意義だった。
- ◆ 三菱総研の調査に係る報告は、調査終了後の現時点ではなく、もっと早い段階で聞くことができればよかった。
- ◆ 本学の研究評価にどの様に落とし込んでいくかの具体例が見えた。
- ◆ 民間の方の話が、違う視点からの評価について、役に立ちそう。
- ◆ 評価活動の目的について再確認をさせていただいた。評価方法については、各機関の特性をふまえてより望ましいものを弾力的に打ち出していくことが大切であることを、再確認させていただいた。
- ◆ 評価の目的に関する議論が参考になった。但し、評価基準への視点・考察は不足と思う。
- ◆ 山口大の実例が参考になった。
- ◆ Actionにつながる評価について。
- ◆ 先進的な取り組みは参考になった。
- ◆ 畠田先生、三木先生の話は新しいところが多かった。
- ◆ 研究評価の段階になったとの認識を持った。
- ◆ 東京ガスの人の講演はよかった。また、評価全体への受けとめがネガティブでなかったことが意外であった。
- ◆ 統計データが参考になった。
- ◆ 大学の教員評価に関する情報が多かった。
- ◆ 大学の評価方法が良くわかった。

満足度



〈「とても満足した」と回答した者〉

- ◆ アンケート結果を国公立大学についてまとめた講演があり、全体的な傾向や今後の課題について情報を得ることができたため。
- ◆ 評価についての様々な論点が講演およびパネルディスカッションから学ぶことができた。
- ◆ 傾向のばらつきをみても、直輸入はない。自分たちで議論し、生み出すものをよりよくすることが大事であるという思いを強くした（国立大を模範としつつ、ローカルルールをかなりもちこみつつある中で、自信となった）。東京ガスの方も、参考になる話、研究の根本のことを考える参考になった（学内コンペの参考になった）。
- ◆ 質問3（&2）と同様、本学への導入にあたり、課題も浮き彫りとなった。

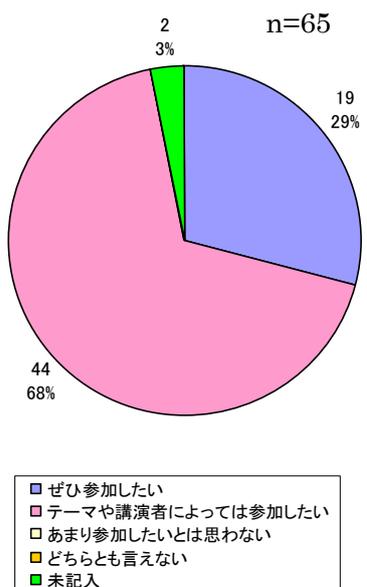
〈「満足した」と回答した者〉

- ◆ 具体的な事例を色々あげていただいたのが良かった。
- ◆ 調査結果が、参考になる。
- ◆ これからの教員評価に即利用できる評価の方向性が（全体像）が解った。
- ◆ 全ての方々のプレゼンがわかりやすく満足した。
- ◆ 最後のディスカッションでもう少し方向性、結論がほしかった。
- ◆ 新しい情報を知ることができた。
- ◆ 個別の実例紹介がもう少しほしかった。

〈「どちらとも言えない」と回答した者〉

- ◆ 評価ノウハウが知りたかった。
- ◆ 日本では、アメリカ型を理想とした時に、理想の評価の在り方と現状が乖離しているということと思うが、日本型もあってよいと思う。

今後の参加



〈「ぜひ参加したい」と回答した者〉

- ◆ パネル討論で活発に発言されていて、多彩な意見が出されて参考となった。
- ◆ 評価に関する情報の収集のため。
- ◆ 他の教職員に参加させたい。

〈「テーマや後援者によっては参加したい」と回答した者〉

- ◆ 早めに計画を立て、アナウンスしていただきたい。
- ◆ 個別大学の実践例を知りたい。その中から有用なものを習いたい。
- ◆ 大学を取り巻く問題は数多く、すべてに参加できない。
- ◆ 評価は大学にとって重要な課題でありいろいろな例や論点を学べる。
- ◆ とくに人文系及び芸術系大学に於ける評価に関するシンポジウムを期待している。
- ◆ ここまで見ていて毎回関心のあるテーマではないため。

希望する内容・テーマ

主な意見

(●：事務職員、■：教員・研究者、▲：左記以外の者)

- 経営科学等に基づいた評価。
- 企業の評価の実例をもっと伺いたいと思う。
- 国際的ベンチマークの実際と具体的な手法。
- 国立大学法人における教員個人評価の実際課題やその対応等、実例を多く知りたい。
- 評価（実施）のノウハウ。
- 他機関の取り組み、成果を具体的に示す講演を多くしてほしい。
- 今回、三菱総研の調査の報告があったが、大学・独法・民間による違い、また、大学でも設置形態による違いがあるので、各機関等の実例を聞く機会があれば参加したいと思った。
- 国立大学中期目標・計画に係る研究開発分野とその評価との連携。
- 独法機関や民間企業の R&D 部門などで実際に行われている評価について、なるべく具体的な話を伺いたい。
- 評価後の活用事例を詳細に報告して欲しい。
評価される教員側の生の声を報告して欲しい。
評価を行う要員、体制、予算などについて。
- 研究評価活動における PDCA サイクルの A について FD 等の取り組み等について紹介していただきたい。
- 評価基準をテーマとして欲しい。
- 財務。
- 研究に対する評価でお願いしたい。
- 評価者に対する評価方法や能力向上に関する研修等の事例紹介。
- ▲ 教育面の評価も取り上げて欲しい。
- 芸術系大学に於ける表かの考え方、方法等。
- ”文系研究の研究評価”について。
- 教育と研究評価の関係を検討して欲しい。
- ▲ 教員評価、教育に関する評価。

会場・実施時期・実施時間などについて

主な意見

(●：事務職員、■：教員・研究者、▲：左記以外の者)

- 今回はとてもよかったと思う。
- 平日午前もしくは午後のどちらか。夕方～夜間は避けて欲しい。
- 通知（案内）の時期が遅いと思う（開催日の一週間前程度）。
- 適当だった。
- 交通の便がよい。会場もよい。
- 会場は適度に空席があり余裕があってよかった。駅からも近くよかった。入試シーズンは避けた方が、大学関係者は参加しやすいのではないかと。13:30～はベター、終了は 17:00の方がベターだと思う。
- 適当。
- 各講演の時間が、適度な長さでよかった（長すぎると集中できなくなるので）。
- Good。
- 帰りの便の都合もあるので、日帰り出張が可能なように、午後 5 時までには終了していただきたい。
- 駅の近く。
- 恵まれた施設環境だった。
- もう少し前にこの催しの企画を連絡していただきたかった。
- 会場、地図と階数を主旨説明の中に入れて欲しい。探してしまった。建物の入口に企画を提示してほしい。
- 丁度よい。
- 毎年一回程度。
- ▲ Good。ホットスポットがあるとなお良い。
- 特にない。会場は東京駅より交通至便で有り難い。
- 今回のような会場で実施して欲しい。
- ちょうど良い。

シンポジウム全般に関する意見

主な意見

(●：事務職員、■：教員・研究者、▲：左記以外の者)

- ハウリングがひどく、聞きにくいのが残念だった。
- ビデオ撮影をし、希望する機関へ貸し出すようなことを検討願いたい。
- パネルディスカッションのモデレーターの仕切りがすばらしかった。
- 今回は、指針の改正があったのであるから、そのポイント等を説明する時間が設定されていてもよかったのではないか。シンポジウムやセミナーの年間のスケジュール等が年度当初等に示されると予定を立てやすい。
- 研究、教育、管理運営に特化した評価、バランスの程度を知りたい。
- ▲ 科研費等の競争的資金のような厳然たる評価（勝負が分かれる）ものと、研究者を勇気づける評価という一種の乖離がある中で、事前・事後に関する評価活動についての考え方を議論するシンポジウムなどは面白いのでは。
- 特にない。有意義な議論と提案だったと思う。
- パネルディスカッションのときのマイクの音が反響していた。
本日のパネルディスカッションはこれまでの中で面白かった。小沼先生の話は非常に的確で良かった。

研究開発評価活動に関する支援

主な意見

(●：事務職員、■：教員・研究者、▲：左記以外の者)

- シンポジウム、研修等の情報を定期的に配信してくれるメーリングリストがあるとありがたい。
- WS は非常に勉強になる。
メーリングリストの開設（ネットワークフォーラム）を考えてはいかがか？
- 8. に記したような内容（指針の改定のポイント、シンポジウム等の年間スケジュール等）を、HP に掲載してほしい。開催案内のメールは引き続きお願いしたい。シンポジウムの開催・運営ありがとうございました。
- 東京ガス小沼氏の結論は「社会人力」ないし「社会人基礎力」として求められるものと同様であり、全体として求められる人材像が同じで面白い。
- 具体的・個別的指導が上げるとありがたい。→出前相談・指導

参 考 资 料

研究開発評価推進検討会について

平成20年4月23日

科学技術・学術政策局長決定

1 趣旨

第3期科学技術基本計画において、研究開発の効果的・効率的な推進、国民への成果の還元が求められており、研究開発評価の重要性も益々高まってきている。その中で、評価対象がより複雑な対象に拡大し、また、評価に対する要求水準も高度なものになりつつあり、評価システムの見直しが不可欠となっている。

このため、科学技術・学術政策局評価推進室において実施している様々な研究開発評価に関する施策や事業を、より効果的かつ体系的に企画・実施することを目的として、研究開発評価推進検討会（以下「検討会」という。）を設置し、助言及び支援を得ることとする。

2 検討事項

- (1) 研究開発評価を推進する施策に関すること
- (2) 研究開発評価の研修やシンポジウムに関すること
- (3) 研究開発評価の情報収集や意見交換に関すること
- (4) その他

3 委員の構成等

- (1) 検討会の委員の構成は別紙のとおりとする。
- (2) 必要に応じて委員の追加等を行うことができる。
- (3) 必要に応じて別紙以外の者からの協力を求めることができる。

4 実施期間

平成20年4月23日から平成21年3月31日までとする。

5 その他

検討会の事務は、科学技術・学術政策局評価推進室において行う。

研究開発評価推進検討会委員名簿

氏 名	職 名
◎伊地知 寛 博	成城大学社会イノベーション学部教授
内 田 理 之	理化学研究所筑波研究所研究推進部企画課長
岡 村 浩一郎	科学技術振興機構研究開発戦略センターフェロー
奥 居 正 樹	広島大学大学院社会科学部准教授
小 林 信 一	筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授
小 湊 卓 夫	九州大学高等教育開発推進センター准教授
桜 井 誠 人	宇宙航空研究開発機構研究開発本部未踏技術研究センター主任研究員
鳶 田 敏 行	茨城大学評価室助教
鈴 木 潤	政策研究大学院大学教授
鈴 木 達 也	日本学術振興会研究事業部参事（兼）研究事業課長
○永 田 潤 子	大阪市立大学大学院創造都市研究科准教授
林 隆 之	大学評価・学位授与機構評価研究部准教授
林 部 尚	科学技術振興機構経営企画部調査役

※◎は座長、○は座長代理を示す。

※職名は、平成20年度のもの。

（以上13名、五十音順、敬称略）

